講話

# 幼兒の心理的發達（十一）

東京家政大學教授　山下俊郎

## 七、幼兒の發達的特質

いままで十回にわたつて乳兒からはじめて六歳兒に至るまで、一歳ごとの發達的特質を運動的發達、知的發達、情緒的發達、社會的發達の四つの面からながめて來た。最後にこれまで述べて來た幼兒期全體にわたつての發達的特質をとり出して考えて見たいと思う。

### （1）發達の基礎であるということ

幼兒の時期は人間一生のスタートである。すべての生活の基礎はこの幼兒期に築き上げられるのである。一體人間の心理的發達には大まかに考えても、乳兒期、幼兒期、兒童期、青年期という四つの時期が區別されるのであるが、どの時期においてもその時期特有の發達があり、その時期でなければ見られない心理的生活がある。そして一人の人間が順調な發達をとげることが出來、立派な完成された人間に成長することが出來るためには、このような一つ一つの時期の段階を一つずつ順々にのぼつて行くことが必要である。そしてこの段階を一つずつのぼつて行くという言い方は極く表面的な言いあらわし方であるが、これをもう少し生活の內容に立ち入つて言うならば、それ〴〵の段階に特有な生活を充分に生活することが、次の段階にのぼつて行くための前提である。この意味において一つ〳〵の時期にはその時期でなければ出來ない生活があるわけであつて、その生活を充分にその段階で生活することが子供の成長にとつて何よりも大切な成長の道である。このように考えて來ると、わたくし達がいままで見て來たような幼兒の時期の各年齡ごとの生活には、その年齡の子どもの生活としてまことに大きな意味を持つている。そしてこれを幼兒期全體としてながめて見ると、幼兒の時期に幼兒の時期らしい生活をすることが、將來兒童となり、青年と

なる子どもにとつて何よりも大切な營みになつて來るのである。ここに幼兒の時期がすべてのこの後の發達の基礎になるものであるということの意味が大きく浮かび上つて來る。まことに幼兒の時期が人間一生のスタートであるということは發達の基礎であるということにおいて誠に大切な意義を持つているのである。

## (2) 發達のテンポが速いこと

いままで大體一歳ごとに發達的特質を見て來たのであるが幼兒期の心理的發達の全體的特質の中でめだつことを拾うならば、まず發達のテンポが速いということが擧げられなければならない。

幼稚園でも保育所でも、保育の始まりである四月と一年のちの三月とに、同じ一人の幼兒を見ても、また組全體の幼兒としてながめて見ても、その一年のあいだにおける子どもたちの發達の歩みは何と早いことだろう。毎年三月の卒業式が來るたびに、何年の經驗を持つ保育者であつても、年ごとに新たな驚きを經驗するというのは決して誇張ではない。

このような實際的な經驗を、分析的にいろいろの面から考えて來たのがわたくしのこの幼兒の心理的發達という講話であつたわけであるが、運動の發達、知的發達、情緒的發達、社會的發達の一つ々々について述べながら、わたくしは「めざましい發達」とか「すばらしい發達」という言葉を幾度か使つて來た。わたくしの語彙がまずしいせいであろうが、外に言いあらわす適當な言葉が見つからなかつたのである。

運動の發達について考えて見ると、六歳までの間に幼兒たちはもう一通りの運動の力を身につけている。二歳三歳というころにはまことにぎこちない動きをしていた子供たちが五歳六歳になるともう一通りのことがやれるようになつていてその身につけた運動の力をもとにして盛に活動している。知的發達においても子どもたちの成長はまことにいちじるしい。言葉の發達一つだけについて見ても、五歳すぎた子供はもう赤ちゃん的な發音などしなくなつている。情緒の發達において泣くという一つの現われをとつて見ても、三歳ごろまでは泣き虫だつた子どもたちが、五歳すぎるともう泣き虫といわれない程度に成長している。社會的發達を見ても、五歳になると一通り自分のことは出來るし、お友達とも結構一緒になつて遊びたのしむ社會生活を展開している。このようにして五歳すぎた幼兒はすでにひとかどの發達をとげているので「たよりになるたのもしい」感じがすると言われている ゲゼルは五歳という年までに人間は一應完成のすがたを示すと言つているくらいである。

このようにして幼兒の時期は發達のテンポがまことに速いという特質を持つている。そしてこのことは保育の實際にあたつて非常に大きな意義を持つている。このように發達のテンポの速い時期には、まわりの者が與える指導によつて伸びるものはぐん〳〵のびて行く、しかし、もし指導が適當でな

かつたならば伸びるべきものが伸びないで押えられてしまうしかものびて行くものはすばらしい速さでのびて行くのであるから、のびるものと、のびを押えられたものとの差は非常に大きなものになつて來るのである。ここに保護者のつとめが大切な意味を持つて來ることをわたくし達はよく〳〵考えなければならないと思う。

## （3）未分化であるということ

幼児の時期は、いま述べたようにすばらしくテンポの速い發達のとげられる時期である。しかしもう一方から考えて見ると、幼児の時期には幼児らしい大きな特質がある。それは幼児の心理は未分化であるということである。未分化であるというのは將來さきになつていろいろのものに分かれて行くべきものが、未だわかれないで一緒に混然となつていることを意味する。幼児の心はまさにこのように未分化なものなのである。知的生活においてすばらしい發達をとげては來た、しかし幼児の心では想像と現實という、大きい子供でははつきり分かれている二つの世界が、まだ確然と區別される所までに至らないでいる。情緒的な生活においていろ〳〵の情緒が成長をして來た、しかし大人の生活のように情緒的な生活と知的な生活とが確然と分かれるという所まで行かないので知的生活は多分に情緒的生活に左右されて光つたりくもつたりする。知的な世界は知的な世界としてというわけには行かないのである。

いかにすばらしい發達をとげるといつても幼児である限りは、やはり未分化な世界に住んでいるというのが幼児心理の發達的特質である。そしてこの未分化な幼児心理の特質ということが、保育に當る人々の心の中ではつきり認識されるとき、幼児の正しい指導が出來るのであり、また明日の樂しい幼児が育くまれるのである。

## （4）發達的特質の意義

このように發達的特質を大づかみにつかんで見ると、保育の大きな心構えがこれによつて定まつて來るのであるが、いままでのいろいろな細かな發達的特質についてもこのことは同じであるといえよう。一つ々々の發達的特質はそれ〴〵に意味を持つているのである。しかし、この發達的特質に應じてということはその根本において幼児の發達する方向を誤りなくとらえるということである。誤りなく順調に、そしてすこやかな發達をさせる、幼児に幼児としての、この時期でなければ出來ない發達をとげさせて、まつすぐなたのもしい社會人としての成長の道をなだらかにしてやる、これが發達的特質を理解するということのもたらす保育者へのおくりものであると思う。（完）

長らく御愛讀願いました山下先生の「幼児の心理的發達」は本號で完結します。來月號より新に平井信義先生の「幼児の健康保育」の講話を連載いたします。御期待下さい